

抗 HIV 薬服用患者に対する服薬サポート向上を目指して

若松町店
大岩礼奈、齋藤のぞみ

【目的】

1999 年以降、新たな HIV 感染は 19%減少した。

しかし日本において、平成 22 (2010) 年には、HIV 感染者、AIDS 患者の報告数はともに増加し、HIV 感染者は 2008 年、2007 年に次いで過去 3 位、AIDS 患者は過去最高の数値になった。依然として、日本国籍男性を中心に、国内での性的接触を推定感染経路とする HIV 感染者、AIDS 患者報告数の増加傾向が続いている。世界の他の国と比べれば少ない数字かもしれないが、この数字はあくまでも『報告数』であり、自分が感染していると気がついていない感染者を合わせると 5 倍から 10 倍になるのではないかと専門家の意見も聞かれる。

女子医大エリアでは、ハイリスク薬である抗 HIV 薬が多く処方されている。現在の治療法では、患者は一生服薬を続けることが求められている。また抗 HIV 薬の多くは、併用薬との間で様々な相互作用が見られる。そのため、患者に継続的に服薬状況や副作用、併用薬等を確認することが必要である。さらに、日常生活での注意点や服薬の重要性を情報提供することも重要である。しかしながら、患者からの十分な情報収集が行えず、結果としての確な服薬サポートが行われておらず、それに伴い、特定薬剤管理指導加算も算定できていないのが現状である。

そこで、私たちは若松町店で多く処方されている抗 HIV 薬を中心に、服薬サポートチェックシートを作成し、より良い服薬サポートの方法を検討・実施した。

【方法】

- ・ ミキ薬局女子医大エリア 4 店舗の薬剤師へ現状における意識アンケート調査
- ・ 特定薬剤管理指導加算項目とアンケートを踏まえたチェックシート作成
- ・ 抗 HIV 薬情報一覧の作成
- ・ チェックシートを用いた服薬サポートの実施

調査対象：下記期間にミキ薬局若松町店および女子医大エリア他 3 店舗を利用された抗 HIV 薬処方患者

調査期間：平成 24 年 9 月 19 日～平成 24 年 10 月 16 日の 4 週間

- ・ 実施後における意識変化アンケート調査
- ・ チェックシートの有用性の検討

【結果及び考察】

事前アンケートにより、理解している算定項目や聞き取り内容が曖昧で、また、実際の聞き取りも十分に行えていないことがわかった。それらを踏まえ、抗 HIV 薬一覧やチェックシート作成・導入後、コンプライアンス、相互作用、副作用、検査値等のいずれの項目についても確認できた割合が有意に増大し、管理料算定割合も大幅に増加した。以上のことから、チェックシートは服薬サポートに有用であると考えられる。

しかし、今まで十分な聞き取りを行えていなかったこと、話しづらい内容であることから、チェックシート内容・服薬サポート方法において、依然として改善の余地が見られる。各職員の知識向上はもちろんのこと、継続して聞き取りを行っていくことで患者－薬剤師間の信頼関係が構築され、よりよい服薬サポートができるのではないだろうか。今はまだ取り組みを始めたばかりだが、今後はチェックシートの継続利用、一覧の有効活用を行っていきたいと考えている。